9、生活指導の研究
（生活構造時間調査を実施して）

国立療養所南九州病院
西村喜文　日高一夫
杉田祥子　中島洋明

筋ジストロフィー症患者（DMP）の機能低下に伴う社会的、心理的障害についての報告は数多くされているが、生活内容の具体的変化については明確ではない。そこで我々は患者がどのような1日を過ごしているのか当病棟入院患者の生活時間の実態を調査し、今後療育指導の参考にし障害度別に比較して生活時間に疾患そのものがどのように関与するのかを検討したので報告する。

〔方　法〕

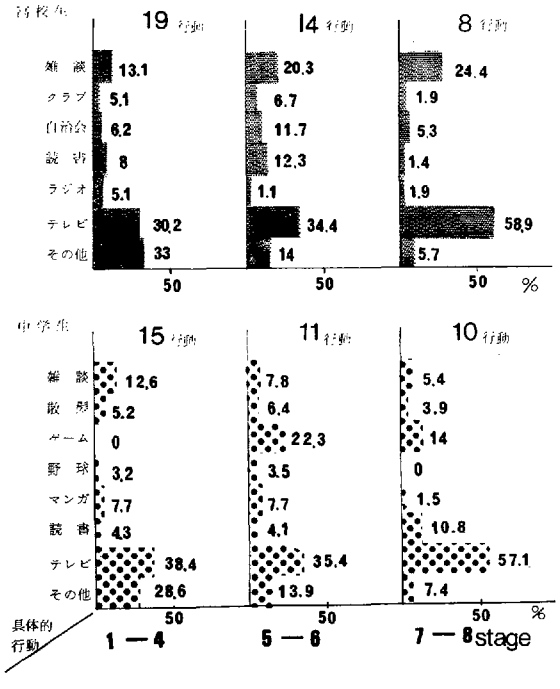
当病棟入所中の中学生以上38名（内高校生19名）を対象に、国民生活時間調査の生活構造時間調査票を用い、自己申告法により0時より24時までの24時間を15分刻みに主要な行動、場所、その相手を土曜、日曜を除いた平日で連続3日間記載させ1日の行動分類と生活内容を把握し、それぞれの示める生活時間量の割合を算出し、障害度別の相関を行ない生活内容の比較検討を行なった。

〔結　果〕

生活時間調査票に記入された行動を基本的生活、社会的生活、医療、その他と4つの大項目に分け、又基本的生活を睡眠、食事、身辺処理に社会的生活を余暇と学業の項目に分け分類した結果、図1のようになり社会的生活を除いてはほとんど同じような行動内容であった。社会的生活の中の余暇の項目について言えば、障害度によって行動内容にも変化がみられた。図2.3は障害度を3段階に分け余暇の具体的行動時間と比較したものであるが、まず障害が進むにつれて行動種類が少なく

（図1）

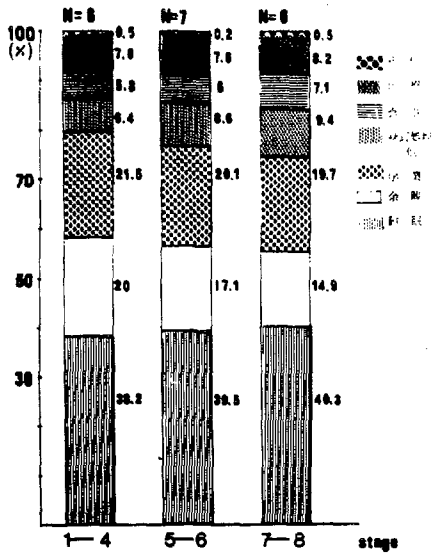
障害度と余暇の具体的行動時間



なっているのが解る。又行動内容もそれに伴い単純化する傾向がみられた。

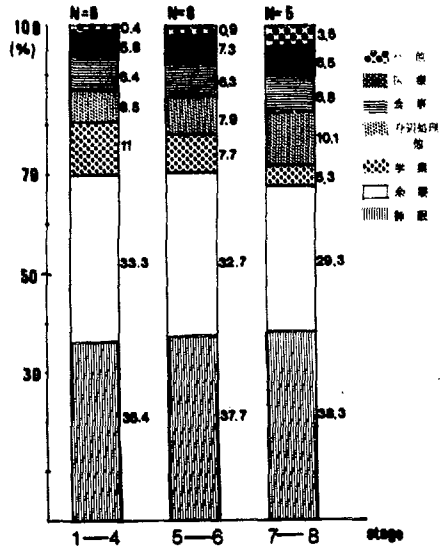
次に障害による生活時間構造の比較をすると高校生の場合、身辺処理やぼんやりなど無為の時間に正の相関を示し、社会的生活は負の相関を示した。中学生の場合も同様であった（表１）。

（図２）



障害度による平均生活時間構造（中学生）

（図３）



障害度による平均生活時間構造（高校生）

（表１）　　障害度と生活構造時間との相関

項目＼対象	中学生	高校生
睡眠	0.6620	0.3917
食事	0.3497	0.2443
身辺処理・他	0.7052	0.4980
余暇	−0.4790	−0.3348
学業	−0.2970	−0.4441
医療	0.1962	0.2910
その他	0.1443	0.5423
	N = 19	N = 19

〔ま と め〕

① 基本的生活では、睡眠、身辺処理に要する時間が増加し逆に社会的生活は減少する。

② 更に余暇については、その内容は障害と共に質的に単純化する。

〔考　　察〕

筋ジストロフィーという進行性の障害が患者の日常生活にどのような影響を与えているのかを知ることは重要である。生活時間構造は、1人の人間の1日24時間の日常生活行動の分布を示すものであるが、これにより機能低下という障害が日常生活へ与える影響の一側面をとらえることが出来る。DMP患者の生活時間構造は、機能低下が進むにつれて身辺処理やぼんやりなどの基本的生活時間が増加し、余暇などの社会的時間は量的に減少し、質的に単純化する傾向がみられ障害の進行に伴ない対人接触の減少も見られるようになり、特に stage 7 ～ 8 度の患者はほとんどをベット上で過ごしていることが解った。又今回は症例が少なく検討出来なかったがDMPD型と比較した場合も時間量、内容共に差があるように思われた。

それだけに進行性という障害が患者の日常生活に与える影響は大きなものがあり、より豊かな生活を送らせる為にも、DMP末期患者の療育指導というものが重要な意味を持つように思われ障害に応じた余暇活動の必要性を感じた。今後更に在宅患者の生活実態をも調査し障害が与える影響を具体的に検討して行きたいと思う。

10 筋ジス患者の年間行事による自己発現について

国立療養所兵庫中央病院
小西史子　荒井道子
龍見代志美

筋ジス患者は、入院すると外部との接触が困難になり、通常の社会生活から隔離されるため、自己の殻の中に閉じこもりがちになる。従がって、院内および院外で患者が無理なく参加でき、長い病院生活に変化を与え、その中で自己発現できるところの各種行事を企画し、また参加させて、その効果と指導について考えてみた。

当院筋ジス病棟における年間行事は別表に示す通りである。外出する際は介助者を要するため父兄参加の行事が多いが、父兄も喜んで協力参加してくれている。患者達は昭和48年に自治会を

検索用テキスト　OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

筋ジストロフィー症患者(DMP)の機能低下に伴う社会的、心理的障害についての報告は数多くされているが、生活内容の具体的変化については明確ではない。そこで我々は患者がどのような１日を過ごしているのか当病棟入院患者の生活時間の実態を調査し、今後療育指導の参考にし障害度別に比較して生活時間に疾患そのものがどのように関与するのかを検討したので報告する。